

# 平成31年度（令和元年度）事業報告

自 平成31年4月1日

至 令和2年3月31日

## 1 事業概要

令和元年度は多難な年度となりました。

9月9日に千葉市に上陸した台風15号を始めとし、10月の台風19号並びに10月25日の大雨は、千葉県の農林水産業に752億5,900万円もの甚大な被害をもたらしました。

畜産においては、家畜や畜産物における被害だけでも10億円を超えており、特に15号では、長期にわたる停電により家畜の飼育及び生乳関連施設・工場の操業停止など、大きな被害があったところです。

また、畜舎やたい肥舎等畜産施設の損壊や、飼料畑での被害も大きく、これまでに経験のない災害となりました。

なお、当協会が10月12日に予定していた恒例の畜産フェアについても、船橋競馬の行事「ふれあい広場」の中止に伴い、開催中止となった次第です。

養豚においては、一昨年9月に岐阜県で26年ぶりに発生した豚熱（CSF）や同年8月に中国で発生したアフリカ豚熱（ASF）が引き続き大きな脅威となっております。特に豚熱については、野生イノシシにおける感染が拡大し、これに伴い養豚場での発生も広がり、昨年9月には、埼玉県での発生が確認されるまでに至りました。昨年10月からワクチン接種推奨地域に指定された21の都府県において接種が始まり、千葉県でも2月中旬から始められました。ワクチン接種の効果によるものか、3月12日の沖縄県での全国58例目の発生を最後に沈静しているところです。

そして、本年1月からは新型コロナウイルス感染症の感染拡大が畜産経営にも大きな影響を及ぼしています。外出自粛、学校の休校、緊急事態宣言などにより経済活動が停滞し、畜産においては、学校給食用牛乳への仕向けが止まった酪農や、外食需要などの停滞により牛肉価格の極端な落ち込みが目立っているところです。

このような中、当協会では、災害支援に係る事業、家畜飼養衛生管理基準遵守のための防護柵の設置事業、ナイスポークチバ推進協議会との連携による豚熱関連施策の要請活動、牛マルキン事業の円滑な執行など、通常事業に加え適宜、的確に対応してまいりました。

そのほか、ナイスポークチバ推進協議会、チバザビーフやチバザポーク協議会等、計10団体の事務局を務めることで、生産者や関係機関・団体等との連携を深め、生産現場に密着した協会運営を図ることを可能としてまいりました。

## 2 会員及び役職員の構成（令和2年3月31日現在）

### （1）会員

区分	計
県域畜産団体	21
市町村	51
自衛防疫組織	48
農協・会社等	27
生産者組合等	12
賛助会員	5
合計	164

### （2）役員

（単位：名）

会長	副会長	専務理事	常務理事	理事	監事	計
1	5	1	1	10	4	22

### （3）職員

（職種別）

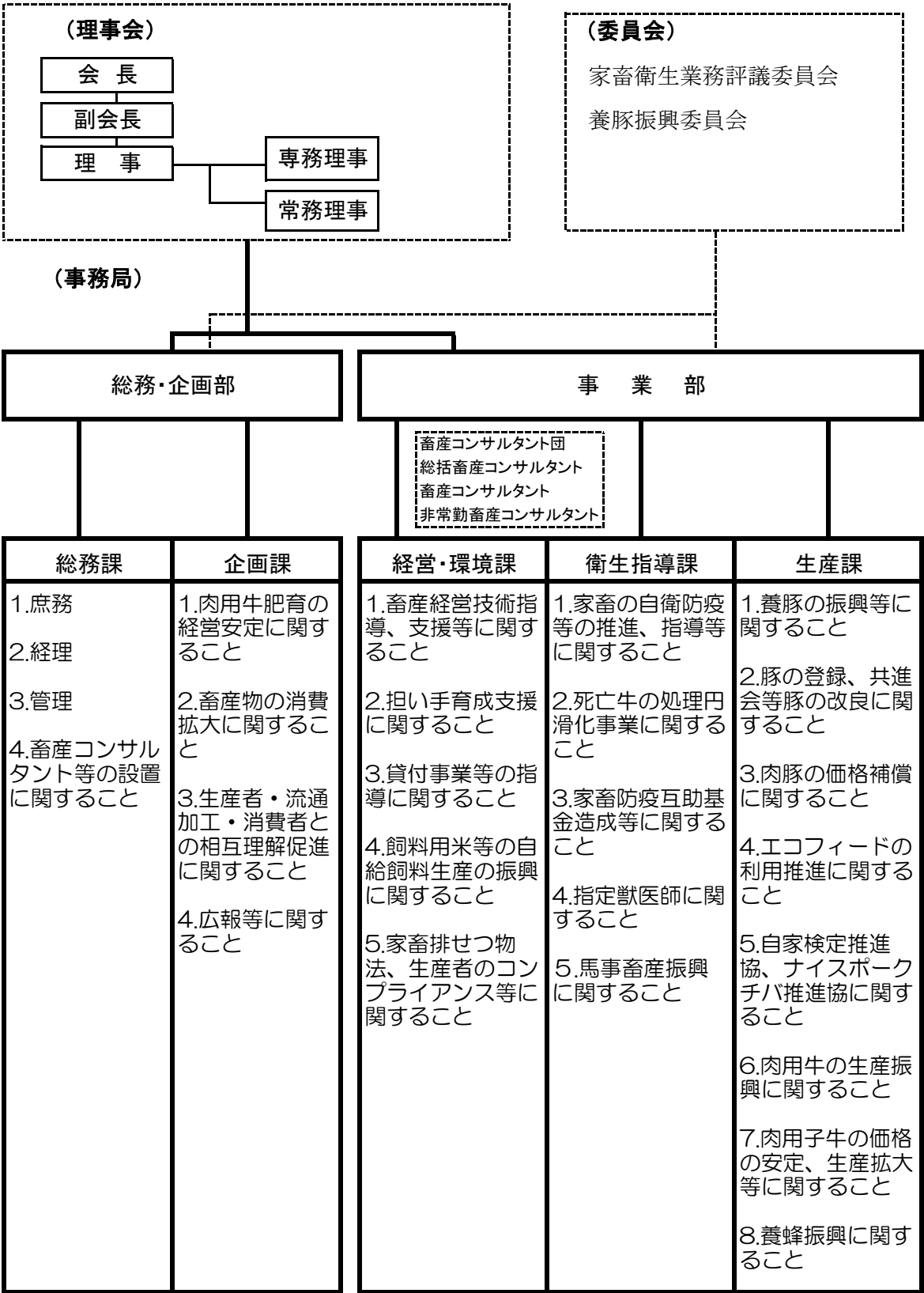
（単位：名）

区分	総括畜産 コンサルタント	畜産 コンサルタント	技術職員	臨時職員	合計
人数	6	3	1	6	16

（所属別）

（単位：名）

区分	職員	嘱託及び 臨時職員	合計
専務理事・常務理事 ・事務局長	3	—	3
総務・企画部	3	4	7
事業部	2	4	6
合計	8	8	16



### 3 会議の開催

#### (1) 監事会

期 日	場 所	内 容
令和元年5月29日	K & T 千葉ビル	平成30年度事業報告並びに貸借対照表、損益計算書及び財産目録について

#### (2) 理事会

期 日	場 所	内 容
令和元年6月3日	ホテルプラザ 菜の花	1) 平成30年度事業報告並びに貸借対照表、損益計算書及び財産目録について 2) 定款の変更について 3) 令和元年度会費の額及び徴収方法について 4) 役員の補欠選任について 5) 肉用子牛生産者補給金交付業務規程の一部改正について 6) 役員の報酬額について 7) 令和元年度定時総会について 報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について
令和元年6月24日	ホテルプラザ 菜の花	1) 諸規定の一部改正について 2) 副会長及び常務理事の互選について
令和2年3月9日	ホテルプラザ 菜の花	1) 令和2年度事業計画及び収支予算について 2) 令和2年度借入金の最高限度額及び借入先の決定について 3) 肉用牛肥育経営安定交付金制度業務方法書の一部改正について 4) 肉用子牛生産者補給金交付業務規程の一部改正について 5) 肉用子牛生産者補給金制度に係る次期業務対象年間について 6) 肉用子牛生産者補給金制度に係る第6業務対象年間終了時における積立金の取扱い並びに生産者負担金の額の改定について 報告事項 代表理事及び業務執行理事の職務執行状況について

(3) 総 会

期 日	場 所	内 容
令和元年6月24日	ホテルラザ菜の花	報告事項 1 平成30年度事業報告について 2 令和元年度事業計画並びに収支予算について 議案 1) 平成30年度貸借対照表、損益計算書及び財産目録について 2) 定款の変更について 3) 令和元年度会費の額及び徴収方法について 4) 役員の補欠選任について 5) 役員の報酬額について

(4) 家畜衛生業務評議委員会

令和元年5月22日	千葉県教育会館	1) 平成30年度家畜衛生業務関係事業の実績について 2) 平成31年度家畜衛生業務関係事業の計画について 3) 家畜衛生業務に係る指定獣医師の諮問について 4) 主な家畜衛生対策事業並びに家畜衛生に係る情報について（家畜課） 5) その他
令和2年3月6日付	書面決議	1) 令和2年度予防接種負担金額の決定について

(5) 養豚振興委員会

期 日	場 所	内 容
令和元年8月1日	千葉県教育会館	1) 令和元年度千葉県肉豚共進会について 2) 原種豚の認定及び助成について 3) 系統造成豚普及に向けた取組みについて 4) 海外悪性伝染病(豚コレラ)について 5) 農場HACCP・JGAPへの取組みについて 6) 肉豚経営安定交付金制度(豚マルキン)について 7) 畜産・酪農収益力強化整備等特別対策(畜産クラスター事業)について 8) ナイスポークチバ推進協議会の活動について 9) その他

(6) 定例会議

原則として、毎月末に常勤役職員による定例会議を開催し、翌月以降の事業の計画的な推進と進捗状況の確認及び業務の円滑化・効率化に努めた。

## I 畜産経営を支援する事業

### 1 地域畜産支援指導等体制強化事業（地方競馬全国協会）公益

地方競馬全国協会からの補助金を得て、①畜産経営の支援体制の強化を図る事業、②地域畜産の活性化、安全かつ安定的な食の提供に資するための事業、③馬事普及啓発の推進体制の強化を図る事業に係る3事業を実施した。

### 2 畜産コンサルタント等設置事業（県）公益

畜産経営の経営改善を図るため、組織活動支援を含めた経営改善指導を実施した。

### 3 会報誌編集発行事業（協会単独）その他

畜産の生産から流通・消費に関する最新情報を、協会の情報誌「畜産ネットワークちば」を3回（第45号・1,700部、第46号及び第47号・各1,500部）発行し、協会会員はじめ関係機関、団体に配布し畜産経営の支援等に資した。

### 4 地域畜産総合支援体制整備事業（県）公益

畜産経営の安定化に資するため、県及び関係機関・団体の協力を得て、畜産経営体に対する支援指導を行った。

#### (1) 畜産コンサルタント団の設置

区 分	総括畜産 コンサルタント	畜 産 コンサルタント	非常勤畜産 コンサルタント	フォローアップ 指導員
人数（名）	5	4	31	11

#### (2) 畜産経営体支援指導研究会

畜産経営技術等の支援指導・畜産経営状況調査を効果的に行うための具体的な指導内容・手法等を検討する総合委員会及び専門委員会を下記のとおり開催した。

① 総合委員会：令和元年7月18日

② 専門委員会：令和元年7月18日

#### (3) 畜産経営技術指導用機器の整備

畜産経営体の支援指導を効果的かつ効率的に行うため、経営支援用パーソナルコンピュータをリースした。

#### (4) 畜産経営技術の支援指導

畜産経営体等からの要請内容・経営水準・実態等に応じ、経営改善のための効果的な支援指導を次のとおり実施した。

##### ① 個別支援指導

畜産経営体に対する経営診断改善指導・経営管理技術指導・生産技術指導・フォローアップ指導等を下記のとおり実施した。

項 目	経営診断 改善指導	経営管理 技術指導	生産技術 指 導	フォローアップ 指 導	計
戸数(戸)	1 0 (酪農)			1 0 (酪農)	2 0
件数(件)	1 0	1 0	1 0	3 0	6 0

## ② 地域支援指導

畜産経営技術に関する研修・意見交換等を行う場としての経営セミナー等を5回（参加者：177人）開催し、地域の経営体集団に対して経営改善のための支援を行った。

指導実績	開催期日	開催場所	人数	内 容
① 令和元年度 先進地視察研 修会 (安房地域)	令和元年 6月4日～ 6月5日	北海道 江別市、恵 庭市、北広 島市	8人 (5人)	① ホルスタイン種の改良及び育成について（牧場視察・意見交換） ② その他
② 第1回安房郡 市乳牛育成 指導会 (安房地域)	令和元年 6月29日	館山市	70人 (40人)	① 審査・審査研修 ② 出品技術講習 ③ 意見交換
③ 全ホ共・関ホ 共安房地域 出品強化研 修会 (安房地域)	令和元年 7月9日	南房総市	35人 (17人)	① 先進地視察内容報告 ② ホルスタインの改良について ～稼ぐホルスタインの体系～ 講師：元協同飼料株式会社 萩原 勲 氏
④ 安房地域酪 農暑熱対策 研修会 (安房地域)	令和元年 8月21日	南房総市	42人 (11人)	① 研修 (1) 情報提供 「ちばの酪農夏季生産性向上対策事業」を活用した安房地域の取組について 講師：安房農業事務所 普及指導員 後藤 衛 氏 (2) 講演 牛群検定成績から見る、暑熱対策効果による牛の快適性確保と飼養管理改善 講師：一般社団法人家畜改良事業団情報分析センター 専門役 三門 隆之 氏 ② 現地検討 (1) 松本光正牧場（スレート・モニター屋根型牛舎） (2) 糟谷英文牧場（ガルバリウム鋼板・かまぼこ型牛舎）



⑤ 印旛郡市サイレージ品評会及び自給飼料研修会 (印旛地域)	令和元年 12月5日	印旛郡市	22人 (3人)	① サイレージ品評会 ② 自給飼料研修会 「ツマジロクサヨトウの防除について」 講師：千葉県農林総合研究センター 病害虫防除課 清宮 宏貞 氏 「千葉県におけるアルファルファ栽培試験について」 講師：千葉県畜産総合研究センター 企画環境研究室 青木 大輔 氏 「カビ毒調査における印旛管内の結果について」 講師：日本ニュートリション株式会社 鎌木 雅人 氏
-----------------------------------	---------------	------	-------------	---

- (5) 畜産経営関係情報のデータベースの整備  
畜産経営体に対する効果的な支援指導を行う目的で、畜産関係情報のホームページによる提供を行った。

## 5 貸付事業指導等事業（（公財）畜産近代化リース協会）**その他**

畜産近代化リース協会からの畜産機械、施設等の借受者を対象にその効果的利用を促進するため、再貸付団体の協力を得て、29基について確認調査並びに指導を実施した。

### 1 再貸付団体

No.	再貸付団体名	生産者数	No.	再貸付団体名	生産者数
1	県みるく農協中央支所	4	5	千葉酪農協	1
2	県みるく農協東部支所	1	6	八千代酪農協	5
3	県みるく農協南部支所	11	7	全農千葉県本部	3
4	千葉県三和酪農協	4	計		29

### 2 貸付施設等

No.	貸付施設区分	調査数
1	自給飼料生産利用機械施設	10
2	生乳生産合理化施設	10
3	畜舎環境改善機械施設	9
4	生乳処理流通施設	0
計		29

## 6 畜産特別資金等推進指導事業（（公社）中央畜産会）**公益**

大家畜改善緊急支援資金、大家畜経営維持緊急支援資金、大家畜特別支援資金、養豚改善緊急支援資金及び養豚経営維持緊急支援資金借入者の経営改善に資するため、年3回の県支援協議会（本協会事務局）を開催する

とともに、現地調査等を実施し、経営改善方策等について検討の上、借入者に対する助言指導を行った。

維持緊急支援 4 経営（肉用牛 1、養豚 3）

改善緊急支援 4 経営（酪農 1、肉用牛 1、養豚 2）

特別支援資金 1 経営（酪農 1）

## 7 肉用牛経営安定対策補完事業（地域における肉用牛生産基盤強化等対策事業）（**独**）農畜産業振興機構）**公益**

肉用牛繁殖基盤の強化を目的とし、地域の中核となる担い手育成のための繁殖雌牛増頭のための奨励金の交付、肉用牛ヘルパー活動推進（削蹄、出荷、除角など）を推進した。

### （1）中核的担い手育成増頭推進

奨励金交付対象戸数：6 戸      対象頭数：4 5 頭

増頭奨励金    4, 4 4 0, 0 0 0 円

（8 万円：3 頭、1 0 万円：4 2 頭）

### （2）肉用牛ヘルパー活動推進

2 カ所（安房・香取）各肉用牛ヘルパー利用組合の飼養管理、削蹄補助、出荷ヘルパー等の利用の推進を図った。

## 8 畜産経営災害総合対策緊急支援事業（肉用牛経営災害緊急支援対策事業）（**独**）農畜産業振興機構）**公益**

令和元年 8 月から 9 月の前線に伴う大雨（令和元年 8 月 1 3 日から 9 月 2 4 日までの間の暴風雨及び豪雨、また台風第 1 0 号、第 1 3 号、第 1 5 号及び第 1 7 号含む。）及び台風第 1 9 号により被災した生産者の安定的な経営継続のための支援を行った。

### （1）牛舎、飼養管理の付帯施設・機械の補改修等

対象戸数：2 戸

### （2）緊急避難等支援

対象戸数：1 戸

### （3）繁殖に供する雌牛の導入支援

対象戸数：1 戸      対象頭数：1 頭（妊娠牛 1 頭）

### （4）電力確保支援

対象戸数：5 戸

## 9 エコフィード・TMR 普及定着推進事業（県）**公益**

畜産業において飼料自給率の向上は大きな課題であることから、千葉県ではエコフィード及び TMR の利用推進に取組み、飼料自給力の強化を図ってきた。近年、エコフィードを新規に利用する農家が増えているほか、粕類等を活用した TMR の生産・利用も進んでいることから、これら国内由来飼料の普及に加え、利用の定着を図ることが求められている。

このため、エコフィード及びTMRの利用に精通した人材を千葉県エコフィードコンサルタントとして設置し、指導・調査及び研修会等を通じ、畜産農家におけるエコフィード・TMRの利用定着を図った。

#### **10 畜産・酪農収益力強化総合対策基金事業（（公社）中央畜産会）公益**

地域における中心的経営体の収益性の向上等に必要な機械装置の導入を支援する本事業の千葉県の窓口として、事業要望（148件）、参加申請（70件）のとりまとめ等を実施し円滑な事業推進を図った。

また、機械導入状況調査に係る現地調査（10件）等も実施した。

#### **11 酪農経営体生産性向上緊急対策事業（楽酪事業）及び酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業（楽酪GO事業）（（公社）中央畜産会）公益**

酪農家における労働負担軽減・省力化等の取組みに必要な機械装置の導入（楽酪事業）及び導入と一体的な施設の整備（楽酪GO事業）を支援する本事業の本県窓口として、事業の普及、事業推進指導業務を行い、実施計画申請（機械装置数：9件、一体的な施設整備2件）のとりまとめ等を行った。

#### **12 養豚経営安定対策補完事業（（独）農畜産業振興機構）公益**

養豚経営の安定化を図るためには、更なる経営コスト削減及び生産性の向上を図っていくことが必要である。そのため、各地域における能力向上や能力評価に必要な一代雑種雌豚を導入し、養豚経営の体質強化を図った

4団体 養豚生産者5名 一代雑種雌豚96頭導入

#### **13 畜産経営災害総合対策緊急支援事業（養豚経営災害緊急支援対策事業）（（独）農畜産業振興機構）公益**

台風15号及び台風19号により被災した養豚農家の経営維持のための支援を行った。

##### **（1）繁殖用雌豚の導入**

豚舎の損壊等により死亡、廃用又はやむを得ず売却した繁殖用雌豚の頭数を上限に、種豚導入に対して補助を行った。

対象戸数：7戸 142頭

##### **（2）電力確保支援**

電力確保に要した発電機の借上げに要した経費を対象に補助を行った。

対象農家：7戸

## **Ⅱ 家畜衛生向上及び環境に関する事業**

## 1 家畜生産農場清浄化支援対策事業（国庫）公益

畜産の健全な発展に資するため、牛ヨーネ病、豚オーエスキー病及び牛白血病の清浄化対策、牛ウイルス性下痢・粘膜病対策及び予防接種によるアカバネ病等の発生・流行防止対策を推進し、自主的な家畜防疫意識の向上と家畜の損耗防止を図った。

### (1) 牛ヨーネ病清浄化支援対策

ヨーネ病発生農場の清浄化を図るため、ヨーネ病検査に対して助成した。

・検査頭数 56頭                      ・検査農場 1農場

### (2) EBL感染拡大防止対策

EBLの感染拡大防止を推進するため、抗体検査等に対して助成した。

・抗体検査等 1,378頭                      ・対象農家 16農場  
・吸血昆虫の忌避・駆除対策 2件(ペルネット、ペルタグ等導入補助)  
・高リスク牛のとう汰推進 2頭(1農場)  
・研修会の開催 ホテルサンモール(67名参加)

### (3) 牛ウイルス性下痢・粘膜病対策

牛ウイルス性下痢・粘膜病の清浄化を推進するため、発生農場等の重点的な検査、本病の持続感染牛のとう汰、ワクチン接種等に助成した。

・検査 7,128頭                      ・24農場  
・ワクチン接種 129頭                      ・2農場  
・PI牛のとう汰推進 35頭(乳牛16頭、肉牛19頭)・14農場

### (4) 疾病流行防止支援対策事業

牛の異常産の発生・流行を防止するため、下記のワクチン接種について助成した。

アカバネ病(単味)	異常産(3種混合)	異常産(4種混合)
3,502頭	7,659頭	2,120頭

## 2 家畜防疫互助基金造成等支援事業（(独)農畜産業振興機構）公益

畜産経営に甚大な影響を及ぼす海外悪性伝染病(口蹄疫、牛肺疫、牛疫、豚コレラ、アフリカ豚コレラの5疾病)の発生に備え、牛及び豚飼養農家による互助基金の造成を支援し、万一の発生に際して同額の補助金((独)農畜産業振興機構助成)を加えた互助金を交付し、損害及び経営再建への支援を図る。令和元年度は事業期間(平成30年度～令和2年度までの3か年)の2年目にあたる。

今期(令和元年度)の加入状況

牛			豚		
戸数	頭数	基金造成額	戸数	頭数	基金造成額
524戸	61,452頭	9,341,675円	165戸	592,766頭	98,293,250円

## 3 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業（国庫）公益

(牛疾病検査円滑化推進対策事業)

牛海綿状脳症（ＢＳＥ）検査が必要な９６ヶ月齢以上の死亡牛の円滑・適正な処理を推進するため、死亡牛の発生農場から化製場までの輸送費及び焼却処理経費に対し助成した。

・輸送費（２２９頭）、適正処理費（２１８頭）

**４ 馬飼養衛生管理特別対策事業（（公社）中央畜産会）その他**

馬の生産、流通の国際化等に伴い馬インフルエンザ等の侵入、流行の危険性が高いことから、競走馬以外の馬の獣医療実態調査、飼養衛生管理技術講習会等を行い、馬防疫の意識向上に努めた。

（１）馬飼養衛生管理体制整備委員会の開催 １回 ７名出席

日時：令和元年９月１３日（金） 場所：ホテルラサール菜の花（千葉市）

（２）馬飼養衛生管理技術講習会の開催 １回 ２７名出席

日時：令和２年１月１７日（金） 場所：千葉市生涯学習センター（千葉市）

演題・講師

①疝痛の診断方法と予防対策について

講師：日本中央競馬会 馬事部 防疫課 課長補佐 小平和道先生

（３）地域馬獣医療技術基礎調査

乗馬クラブ等の馬飼養者を対象に「馬飼養衛生管理基準に基づく衛生管理区域の設定状況による予防衛生対策等に関する調査」を実施した。

調査対象戸数９２戸、回答戸数４３戸（４６％）から回答が得られた。

（４）馬飼養衛生基礎技術実習

馬飼養衛生、馬獣医療技術に関する普及検討会を開催予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮して中止した。

**５ 育成馬等予防接種推進事業（（公社）中央畜産会）その他**

３種混合ワクチン			馬インフルエンザワクチン				日本脳炎 ワクチン	２種混合 ワクチン	計
１歳馬	２歳馬	計	１歳馬	２歳馬	繁殖牝	計	２歳馬	２歳馬	
２３頭	１８頭	４１頭	２３頭	１６頭	３頭	４２頭	１３頭	１２頭	１０８頭

馬飼養の集団化、多様化及び煩雑な移動等の実態を踏まえ競馬場入きゅう前の育成馬等について予防接種の徹底を図るため、下記のワクチン接種に対して助成し、馬防疫の推進に努めた。

**６ 馬伝染性疾病防疫推進対策事業（（公社）中央畜産会）その他**

地域における自主防疫活動の強化を図るため検討会を開催し、競走馬以外の乗用馬等を対象とした馬インフルエンザワクチン接種の推進、軽種馬の繁殖牝馬を対象とした馬鼻肺炎ワクチン接種の推進を図った。

馬インフルエンザワクチン	馬鼻肺炎ワクチン
６９２頭（乗用馬 ６９２頭、小格馬等 - 頭）	０頭（ 頭× 回接種）

## 7 地域自衛防疫強化特別対策事業（（公社）中央畜産会）**その他**

生産現場における自衛防疫体制の強化を図るため、生産者参加による防疫演習を行った。

区分	行事名等	実施月日	実施場所	概要
地域及び県域防疫演習	豚熱防疫演習 （旭市養豚推進協議会と共催）	9月30日	ヒューマンプラザ黄鶴（旭市）	参加者 161 名 内生産者等 59 名
	（県と共催）	10月29日	千葉市農政センター（千葉市）	参加者 146 名

## 8 農場 HACCP 取組体制緊急強化事業（（公社）中央畜産会）**公益**

農場 HACCP の普及促進を図るため、農場 HACCP 推進農場の実態を調査するとともに、認証に向けて取組む農場に対して技術指導者を派遣し、効果的な指導・支援を行い、認証普及を図った。

### （1）普及推進協議会等会議の開催

①普及推進協議会：2回、②地域取組促進活動：3回

### （2）農場 HACCP 認証構築指導推進事業

①農場 HACCP 構築指導に係る意見交換会の開催：3回

②農場 HACCP 構築指導事業

対象農場：酪農4農場、肉牛16農場、豚21農場、採卵鶏3農場  
ブロイラー1農場 計45農場 農場 HACCP 指導員：15名

## 9 畜産 GAP 拡大推進加速化事業（県）**公益**

日本版畜産 GAP の普及推進のため、生産現場での研修会、GAP 認証取得のための個別指導、コンサルタント等を行った。

研修会4回、個別指導農家数9戸（14回）、コンサルタント実施1戸

## 10 野生獣衛生体制整備推進確立対策事業

（家畜衛生対策推進協議会 事務局：中央畜産会）**その他**

野生獣による家畜への伝染病の伝播拡散や人畜共通感染症の浸潤等、家畜衛生管理上の危害の防止を図るため、イノシシ、シカ等の野生獣に係る衛生実態等の調査、畜舎侵入防止対策及び衛生管理に関する広報の普及を図った。

### （1）地域衛生技術連絡協議会：2回

### （2）野生獣の衛生実態等調査

シカ：28頭9項目（E型肝炎、サルモネラ感染症、カンピロバクター感染症、腸管出血性大腸菌感染症、トキソプラズマ病、日本脳炎、牛ウイルス性下痢粘膜病、重症熱性血小板減少症候群、住肉胞子虫）

イノシシ：12頭9項目（E型肝炎、サルモネラ症、オーエスキー病、トキソプラズマ病、豚丹毒、豚流行性下痢、日本脳炎、

## 豚パルボウイルス症、重症熱性血小板減少症候群)

### 1 1 地域豚疾病緊急対策推進事業 ((公社) 中央畜産会) その他

養豚主要生産地域である旭市において、生産性を阻害するPRRSの発生低減やバイオセキュリティ強化に取り組む自衛防疫組織に対して、必要な防疫対策などに係る経費の助成を行い、生産性の向上を図った。

(1) 対象 旭市養豚推進協議会の生産者 (53戸)

(2) 地域推進会議

ア 旭市PRRSコントロールプロジェクト・マネジメント会議 (1回)

開催場所 旭市海上公民館

開催月日 令和元年6月19日

イ 旭市PRRSコントロールプロジェクト・全体会議～研修会 (2回)

開催場所 旭市海上公民館、ヒューマンプラザ黄鶴

開催月日 令和元年11月26日、令和2年1月21日

(3) 実施内容

ア PRRS対策実践農場 (モデル) ～7農場

① ステージング検査 (年2回)

ELISA検査 635頭

PCR検査 258検体

シーケンス検査 34検体

② 着地検査 (随時)

ELISA検査 56頭

PCR検査 17検体

シーケンス検査 2検体

③ 清浄化推進検査 (随時)

	ELISA検査	PCR検査	シーケンス検査
母子感染検査	0頭	98検体	0検体
候補豚の検査	222頭	23検体	0検体
繰上げ前検査	679頭	221検体	0検体
病鑑等	0頭	1頭	0検体

イ 一般農場～45農場

ステージング検査 (年1回)

ELISA検査 1,361頭

PCR検査 307検体

シーケンス検査 0検体

### 1 2 ASF侵入防止緊急支援事業 ((独) 農畜産業振興機構) 公益

ASF侵入防止対策として、養豚農家が地域侵入防止計画に基づき野生動物の侵入に対する防護柵を整備する場合に、その負担軽減を図るため、当該柵の整備に必要な費用を助成する取組みを行った。

申請件数 210 農場（令和 2 年度に繰越し）

### 13 市町村等自衛防疫活動支援事業（協会単独）**公益**

当協会では実施する家畜衛生業務の円滑かつ的確な推進を図るため、市町村家畜防疫会等の行う自衛防疫活動に対して支援・指導を行った。

・活動支援助成金交付先 市町村家畜防疫会 48 団体

	R 元実績	備 考
標準活動費	960,000 円	@20,000 円×48 市町村
事業活動費	144,300 円	牛・豚予防接種の実績配分 単価：牛 10 円、豚 0.5 円
合 計	1,104,300 円	

### 14 特定疾病損耗防止事業（協会単独）**公益**

下記疾病に対して予防接種を推進した。

牛伝染性鼻気管炎ワクチン	2,215 頭
豚丹毒生ワクチン	2,800 頭
日本脳炎・パルボワクチン	258 頭
異常産ワクチン（3 種混合、4 種混合）※	106 頭

※ 県立農業高校

### 15 養鶏研修会（協会単独）**公益**

高病原性鳥インフルエンザの防疫対策に資するため、養鶏農家及び関係機関・団体・業者等を対象に研修会を計画したが、養鶏農家における台風・大雨被害を考慮して中止した。

## Ⅲ 畜産の活性化を進める事業

### 1 畜産関係団体調整機能強化事業（（公社）中央畜産会）**その他**

畜種を越えた畜産に携わる女性の集まり「ちば畜産レディースネットワーク」並びに酪農家の牛群検定活用のための活動を支援した。

また、地方競馬の振興のため千葉県畜産賞（冠レース）を船橋競馬場で実施した。

### 2 畜産フェア（協会単独）**公益**

地域住民並びに千葉県民等に対して千葉県の畜産・畜産物に理解を深めていただくため、今年で第 13 回目を迎えるべく準備を進めてまいりました。

今年度は新規に 4 団体、最終的に 28 団体の出展が決まり、県内の畜産の PR や牛乳・牛肉・豚肉・卵等の販売、また、抽選会は大抽選会とスタンプ



ラリーによる抽選会の２本立て、更に来場者数の増加を図るため、若年層やその保護者等を取り込むべく、キッズダンスというイベントも新たに計画しておりました。

しかし、周知のとおり、超大型の台風１９号が千葉県を直撃する進路をとった事に備え、来場者及びスタッフの安全性等を考慮し、やむなく中止とさせていただきます。

そこで、千葉県競馬組合にご協力いただき、令和元年１０月２８日（月）～１１月１日（金）に開催の令和元年度第８回船橋競馬において、急遽、千葉県畜産賞（冠レース）を５日間にわたって設定していただき、千葉県畜産物の消費拡大についてＰＲを行いました。

## Ⅳ 畜産物の品質向上を図る事業

### １ 養豚改良対策事業 **その他**

登記登録を含めた業務を通じ本県の豚の改良推進と強化を図った。

#### １）登録事業（協会単独）

優良種豚改良の基本となる登録を（一社）日本養豚協会登録規定に基づき実施した。

種豚登録 85 頭、子豚登記 300 頭、肉豚証明 945 頭、移動証明 6 頭

#### ２）優良種豚場認定事業（（一社）日本養豚協会

農家戸数の減少、規模拡大に伴い種豚の供給を担うブリーダーの役割は限定されてきている状況にある。

厳しい生産現場の状況を考えると、より能力（繁殖性・産肉性）の高い種豚の改良・確保が最も重要であることから、種豚の生産基盤強化と登録事業の推進を図るため（一社）日本養豚協会認定規定に基づく認定により育成強化を図った。 遺伝資源保存指定種豚場 ３場

#### ３）原種豚認定事業（協会単独）

（一社）日本養豚協会指定種豚場を対象とした事業として、本県純粋種豚の改良、資源確保のため本事業により助成・強化推進を図った。

認定農場に対する助成 ３農場

血統能力の証明に対する助成

種豚登録 18 頭・子豚登記 57 頭

### ２ 千葉県産オリジナル豚肉生産体制強化事業（県） **その他**

平成２８年１月に系統豚として認定されたランドレース種「ボウソウル４」について県内銘柄豚肉の素豚としての活用を促進し、銘柄豚肉の生産性向上および肉質の安定化を図るため、繁殖素豚の衛生的な生産体制構築および、Ｌ４導入農場における成績を客観的に評価し、改善に向けた検討

を行なうことで、銘柄の生産性向上に向けた生産・供給体制及びL4の普及体制の構築を図った。 調査農場5場 L21腹 LW16腹

V 畜産経営の安定化を図る事業

1 肉用子牛生産者補給金制度（（独）農畜産業振興機構）公益

（1）肉用子牛生産者補給金交付に係る業務

肉用子牛生産安定等特別措置法に基づき、生産者補給金の交付等の事業を通じ、肉用子牛生産の安定と経営の健全な発展に努めた。

- ① 令和元年度生産者補給金交付契約締結者 169人
- ② 事務委託先契約締結数 12件

1）契約肉用子牛の個体登録 (単位：頭)

区分 品種	平成31年 1月1日～ 3月31日	平成31年 4月1日～ 令和元年 6月30日	令和元年 7月1日～ 9月30日	令和元年 10月1日～ 12月31日	計
黒毛和種	192	265	249	186	892
褐毛和種	—	—	—	—	—
その他肉専	6	3	1	4	14
乳用種	709	749	651	468	2,577
交雑種・乳	2,094	2,197	1,975	1,623	7,889
計	3,001	3,214	2,876	2,281	11,372

2）生産者積立金の積立額

品 種	契 約 頭 数 (頭)	積 立 単 価 (円)	積 立 額 (円)	負 担 区 分 (円)		
				農畜産業 振興機構	千葉県	生産者
黒毛和種	892	1,200	1,070,400	535,200	267,600	267,600
褐毛和種	—	—	—	—	—	—
その他肉専	14	12,400	173,600	86,800	43,400	43,400
乳用種	2,577	6,400	16,492,800	8,246,400	4,123,200	4,123,200
交雑種・乳	7,889	2,400	18,933,600	9,466,800	4,733,400	4,733,400
計	11,372	—	36,670,400	18,335,200	9,167,600	9,167,600

3) 生産者補給金交付状況

(単位：円、頭)

区 分	保証基準価格の品種区分		黒毛和種	その他肉専	乳用種	交雑種	合 計
平成 31 年 1 月 1 日 ～ 平成 31 年 3 月 31 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	-	-	-	-
		合計	-	-	-	-	-
	②生産者補給金単価		-	-	-	-	-
	③生産者補給交付金額(①×②)		-	-	-	-	-
	交付対象生産者数		-	-	-	-	-
平成 31 年 4 月 1 日 ～ 令和元年 6 月 30 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	3	-	-	3
		保留	-	3	-	-	3
		合計	-	6	-	-	6
	②生産者補給金単価		-	33,200	-	-	-
	③生産者補給交付金額(①×②)		-	199,200	-	-	199,200
	交付対象生産者数		-	2	-	-	2
令和元年 7 月 1 日 ～ 令和元年 9 月 30 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	6	-	-	6
		合計	-	6	-	-	6
	②生産者補給金単価		-	56,600	-	-	-
	③生産者補給交付金額(①×②)		-	339,600	-	-	339,600
	交付対象生産者数		-	2	-	-	2
令和元年 10 月 1 日 ～ 令和元年 12 月 31 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	-	-	-	-
		保留	-	1	-	-	1
		合計	-	1	-	-	1
	②生産者補給金単価		-	25,900	-	-	-
	③生産者補給交付金額(①×②)		-	25,900	-	-	25,900
	交付対象生産者数		-	1	-	-	1
合 計 平成 31 年 1 月 1 日 ～ 令和元年 12 月 31 日	交付対象 頭数 ①	販売	-	3	-	-	3
		保留	-	10	-	-	10
		合計	-	13	-	-	13
	②生産者補給金単価		-	-	-	-	-
	③生産者補給交付金額		-	564,700	-	-	564,700
	交付対象生産者数		-	2	-	-	2

## 2 肉用子牛生産者補給金制度運営体制整備強化事業

((独) 農畜産業振興機構) 公益

### 1) 制度運営適正化推進事業

肉用子牛生産者補給金制度にかかる業務の適正な実施を図るため、全国統一電算処理システムによる業務の充実と事務委託先との個体登録個体識別及び販売・保留確認等の業務の委託により適正かつ円滑な実施に努めた。

### 2) 指定協会運営体制支援事業

生産者補給金制度の推進のための実施体制の確立と運営基盤の安定化のために、財政的支援を得て、協会運営の財政的基盤の強化を図り、肉用子牛生産者補給金制度の適正な運営に努めた。

## 3 肉用牛肥育経営安定交付金制度 ((独) 農畜産業振興機構) 公益

肉用牛経営安定交付金制度は、畜産経営の安定に関する法律に基づく法律制度であり、標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合に肉用牛の生産者に対し、その差額の9割を交付金として交付することにより、肉用牛の生産者の経営に及ぼす影響を緩和すること目的としている。当協会では、農畜産業振興機構の委託を受け、交付金の交付業務等を行うことで肉用牛経営の安定に努めた。

平成31年度・令和元年度 肉用牛肥育経営安定交付金制度 交付金交付状況

期間	品種 区分	交付対象		交付金 単価 (頭/円)	交付金の額 (円) (4/4)	交付金として 支払う額 (3/4)	積立金として 支払われる額 (1/4)
		人数 (人)	頭数 (頭)				
4 月 期	肉専用種	0	0	0.0	0	0	0
	交雑種	0	0	0.0	0	0	0
	乳用種	13	319	42,722.1	13,628,344	10,221,252	3,407,092
	小計	13	319		13,628,344	10,221,252	3,407,092
5 月 期	肉専用種	0	0	0.0	0	0	0
	交雑種	0	0	0.0	0	0	0
	乳用種	12	297	30,806.1	9,149,407	6,862,050	2,287,357
	小計	12	297		9,149,407	6,862,050	2,287,357
6 月 期	肉専用種	0	0	0.0	0	0	0
	交雑種	0	0	0.0	0	0	0
	乳用種	15	299	31,029.3	9,277,755	6,958,310	2,319,445
	小計	15	299		9,277,755	6,958,310	2,319,445
7 月 期	肉専用種	0	0	0.0	0	0	0
	交雑種	0	0	0.0	0	0	0
	乳用種	13	278	35,702.1	9,925,179	7,443,879	2,481,300
	小計	13	278		9,925,179	7,443,879	2,481,300

8 月 期	肉専用種	39	238	42,055.2	10,009,124	7,506,831	2,502,293
	交雑種	0	0	0.0	0	0	0
	乳用種	11	302	74,024.1	8,125,458	6,094,089	2,031,369
	小計	50	540		18,134,582	13,600,920	4,533,662
9 月 期	肉専用種	45	214	12,686.4	2,714,866	2,036,137	678,729
	交雑種	0	0	0.0	0	0	0
	乳用種	14	304	28,826.1	8,763,130	6,572,342	2,190,788
	小計	59	518		11,477,996	8,608,479	2,869,517
10 月 期	肉専用種	50	294	11,344.5	3,335,270	2,501,432	833,838
	交雑種	45	779	15,271.2	11,896,246	8,922,175	2,974,071
	乳用種	16	338	48,722.4	16,468,165	12,351,120	4,117,045
	小計	111	1,411		31,699,681	23,774,727	7,924,954
11 月 期	肉専用種	0	0	0.0	0	0	0
	交雑種	57	931	356.4	331,790	248,822	82,968
	乳用種	14	290	74,024.1	15,580,652	11,685,485	3,895,167
	小計	71	1,221		15,912,442	11,934,307	3,978,135
12 月 期	肉専用種	53	402	8,883.9	3,571,294	2,678,454	892,840
	交雑種	0	0	0.0	0	0	0
	乳用種	13	273	63,042.3	17,210,543	12,907,902	4,302,641
	小計	66	675		20,781,837	15,586,356	5,195,481
1 月 期	肉専用種	0	0	0.0	0	0	0
	交雑種	0	0	0.0	0	0	0
	乳用種	10	228	47,339.1	10,793,310	8,094,979	2,698,331
	小計	10	228		10,793,310	8,094,979	2,698,331
2 月 期	肉専用種	49	278	38,691.0	10,756,098	8,067,053	2,689,045
	交雑種	46	757	24,121.8	18,260,179	133,695,115	4,565,064
	乳用種	13	176	39,319.2	6,920,174	5,190,125	1,730,049
	小計	108	1,211		35,936,451	26,952,293	8,984,158
3 月 期	肉専用種	42	227	165,816.9	37,640,410	28,230,295	9,410,115
	交雑種	44	708	116,715.6	82,634,627	61,975,952	20,658,675
	乳用種	12	208	54,562.5	11,348,997	8,511,742	2,837,255
	小計	98	1,143		131,624,034	98,717,989	32,906,045
合 計	肉専用種	278	1,653		68,027,062	51,020,202	17,006,860
	交雑種	192	3,175		113,122,842	84,842,064	28,280,778
	乳用種	156	3,312		137,191,114	102,893,275	34,297,839
	小計	626	8,140		318,341,018	238,755,541	79,585,477

#### 4 千葉県肉豚経営安定対策事業（県）**公益**

農畜産業振興機構が実施する肉豚経営安定交付金制度の負担金の一部を助成し、養豚経営の安定と肉豚の安定的な生産確保に努めた。

養豚事業者数 179 名 補助単価 1 頭当たり 40 円

### VI 特別事業

#### 1 種豚改良対策基金（協会単独）**その他**

指定種豚場を対象とした原種豚農場の認定による本県純粋種豚の改良の促進と品質の高い豚肉を効率よく生産するための各種事業推進を図るためこの基金を有効に活用した。

### VII その他

#### 1 千葉県畜産物消費拡大推進協議会関連事業

安全・安心等消費者ニーズに応える県産物の銘柄等を推進し「千葉ブランド」を県内・首都圏に向け千産千消・千産全消の確立を目指している生産者団体が船橋市船橋競馬場（船橋ふれあい広場）において千葉県畜産フェアを計画したが、台風 19 号の影響により初めて中止となった。しかし、代替イベントとして、令和元年 10 月 28 日（月）～ 11 月 1 日（金）に開催の令和元年度第 8 回船橋競馬において、急遽、千葉県畜産賞（冠レース）を 5 日間にわたって設定していただき、千葉県産畜産物の消費拡大について P R した。

また、他団体が開催したイベント等に積極的に参加し P R 活動を実施した。

#### 2 千葉県養蜂協会関連事業

##### （1）養蜂振興推進事業（県委託事業）

養蜂振興法に基づき、県外からの転飼者の調整を実施した。

また、蜜源植生状況調査、花粉交配実態調査、蜂蜜等生産量調査並びに寄生虫の発生状況調査を実施した。

##### （2）ポリネーション推進事業

県果樹連等と交渉し、梨花粉交配用蜜蜂を貸し出した。

##### （3）販売対策事業

千葉県畜産賞「三里塚特別競走」の副賞として蜂蜜を提供した。

##### （4）蜜源増殖対策事業

蜜源植物の苗木（椿、桜等）を共同購入し会員に配布、植栽を行った。

##### （5）防疫対策事業

ダニ駆除薬等（アピスタン、アピバール）を共同購入し、会員に配布した。

##### （6）養蜂飼料等斡旋物資対策事業

一般社団法人日本養蜂協会の斡旋による輸入免税砂糖等の共同購入を行い、会員に配布した。

### 3 馬事畜産振興推進事業

- (1) 令和元年9月27日 船橋競馬場会議室において令和元年度千葉県馬事畜産振興協議会総会を開催し、平成30年度事業報告及び収支決算、令和元年度計画及び収支予算について審議・決議した。
- (2) 令和元年10月12日、千葉県競馬組合が実施する「ふれあい広場」へ参加し、馬事畜産振興コーナーを設置し、パンフレット等の配布を行う計画をしたが、台風19号の影響により中止となった。
- (3) 令和元年10月31日、船橋競馬場において、千葉県馬事畜産振興協議会と協賛して、冠レース・千葉県畜産賞「三里塚特別」を実施し、優勝馬関係者に対して賞状並びに副賞を授与した。

### 4 ナイスポークチバ推進協議会関連事業

養豚経営の安定強化と産業振興を図るため、生産者自らの資金拠出による活動の柱である、県産（国産）豚肉の消費拡大、養豚経営安定強化のための政策要請、後継者育成のための青年部等の活動に対し、協会として生産者の活動を支援するため事務を取り扱った。

#### 実績

- (1) 組織強化のための会員加入推進
- (2) 生産性向上のための講習会、研修会の開催及び協賛
- (3) イベント活動及びサポーター会員制度による消費者交流により県産（国産）豚肉の消費拡大推進
- (4) 養豚産業発展を図る為、養豚チェックオフ制度法制化の推進
- (5) C S F（豚熱）早期ワクチン接種のための要請活動
- (6) A S F（アフリカ豚熱）水際対策として成田空港キャンペーンに参加
- (7) C S F（豚熱）防疫ワクチン接種料金軽減要請
- (8) 養豚におけるクラスター事業への積極的参加
- (9) サポーター会員制度による県産（国産）豚肉のPR推進
- (10) 関東ブロックによる養豚振興のための情報交換会への参加と活動
- (11) 国宝熊本城・首里城復興支援のための募金活動の実施
- (12) 養豚経営安定対策事業（全国肉豚）の業務委託に伴う農家指導
- (13) （一社）日本養豚協会（JPPA）との連携による活動
  - ①チェックオフ協議会との情報を共有し法制化に向け活動
  - ②自民党衆参国會議員で創る養豚農業振興議員連盟への要請活動
  - ③国産豚肉消費拡大のためのイベントへの参加
  - ④C S F（豚熱）対策のための情報の共有と対策に関する要請活動
  - ⑤A S F（アフリカ豚熱）に関する情報の共有と水際対策のための要請

### 5 千葉県自家検定推進協議会関連事業

原種豚の確保と能力の高い種豚の改良を担う生産者に対し、協会の執行事業関連事務を取り扱った。

## 6 ちば畜産レディースネットワーク関連事業

畜種を越えた畜産に携わる女性のネットワークとして、平成19年3月に設立、会員は女性経営者をはじめ県関係機関・団体女性職員等で、会員相互の情報交換・研修・消費者交流等の活動への支援等、事務を取り扱った。

情報交換会として、総会終了後、参加者全員が1分間スピーチを行い、取り組んでいること、経営内容の紹介等意見・情報の交換を行った。

## 7 NPO法人いきいき畜産ちばサポートセンター関連事業

畜産に係わる生産者等への支援や畜産振興に向けた消費者等との交流を図るために設立した。現在会員は、団体・個人会員及び賛助会員を含めて86名です。

当畜産協会が行う下記の畜産支援事業や人材情報システム運営及び団体事務受託、消費者交流・動物情操教育事業について、その一部をNPO法人に委託、または協力を得て実施した。

### (1) 畜産経営支援事業

- ・畜産情報収集・提供事業 ・地域農場HACCP認証支援事業
- ・馬事畜産振興推進事業 ・野生獣衛生体制整備推進確立対策事業
- ・千葉県エコフィードコーディネーター設置事業
- ・死亡牛等の受入及び保管等補助業務（県公募事業）

### (2) 人材情報システム運営及び団体事務受託

- ・県立農業大学校畜産関係非常勤講師派遣
- ・団体が実施する、台風被害補助事業に係る事務処理業務のため会員を派遣

### (3) 消費者交流・動物情操教育事業

- ・本年度は台風被害の影響を受け、毎年船橋競馬場で開催している千葉県畜産協会主催の千葉県畜産フェアが中止になりました。千葉県馬事畜産振興協議会の冠レースなどの事業活動に参加しました。

## 8 千葉県肉用牛損害賠償請求生産者会関連事業

東京電力福島第一原子力発電所の事故により、放射能物質により汚染された稲わらが流通し牛肉などに風評被害が出ている問題で、千葉県内の肉用牛生産農家が損害賠償請求を行うため、平成23年度に設立された「千葉県肉用牛損害賠償請求生産者会」の事務局を令和元年度も引き続き行い、県の指導と下記支援団体の協力を得て賠償請求を行った。

### <支援団体>

千葉県家畜商協同組合、千葉県肉牛生産農業協同組合、  
千葉県配合飼料価格安定基金協会〔千葉県全日本畜産経営者協会〕、  
一般社団法人千葉県農業協会（肉用牛部会）、株式会社千葉県食肉公社、



横芝光町（東陽食肉センター）、県南畜産処理事業協同組合（南総食肉センター）  
 (1) 請求状況

請求次	請求者数	請求金額 (千円)	請求日
26	67	16,677	平成29年12月19日
27	72	15,195	平成30年 3月29日
28	69	11,431	平成30年 6月 8日
29	68	14,545	平成30年12月 6日
30	65	12,737	平成30年12月19日
31	68	17,164	平成31年 4月26日
32	61	11,341	令和 元年 6月25日
33	62	13,523	令和 元年10月 1日
34	54	11,013	令和 元年12月26日
35	60	11,912	令和 2年 4月 1日
計		135,538	

(2) 支払状況

請求次	支払者数	支払金額 (千円)	支払完了日
26	67	16,677	平成30年 8月27日
27	72	15,195	平成30年10月12日
28	69	11,429	平成31年 4月24日
29	68	14,546	平成31年 4月20日
30	65	12,655	令和 元年 5月17日
31	68	17,164	令和 2年 2月 7日
32	61	11,308	令和 2年 2月 5日
計		98,974	

※支払完了日は各請求次における最終支払者の日付である。

(3) 請求対象期間

請求次	期 間
26	平成29年 7月 1日～平成29年 9月30日
27	平成29年10月 1日～平成29年12月31日
28	平成30年 1月 1日～平成30年 3月31日
29	平成30年 4月 1日～平成30年 6月30日
30	平成30年 7月 1日～平成30年 9月30日
31	平成30年10月 1日～平成30年12月31日
32	平成31年 1月 1日～平成31年 3月31日
33	平成31年 4月 1日～令和 元年 6月30日
34	令和 元年 7月 1日～令和 元年 9月30日
35	令和 元年10月 1日～令和 元年12月31日

※第2次以降の請求については、未請求・請求漏れを含む場合がある。

## 9 チバザビーフ協議会関連事業

### (1) 県産牛肉ブランド力向上対策事業（県補助事業）

県産牛肉のブランド力向上に不可欠な出荷頭数の拡大と高品質化及び銘柄牛肉の知名度向上に努めた。

#### 【チバザビーフ知名度向上対策事業】

##### ① 推進活動

総会・講習会（令和元年7月、マロウドインターナショナルホテル成田）及び理事会・専門部会（6月、8月、12月、2月（2回）計5回）を開催した。

##### ② 広報活動

- ・エアポートマーケット「空市」（令和元年5月、成田空港）出店
- ・8029フェスティバル（8月、イオンモール幕張）出展
- ・チバ肉フェスinフナバシ（9月、船橋競馬場）出店
- ・ゆめの収穫祭（9月、成田ゆめ牧場）出展
- ・ちばのビーフ&ポークまつり（10月、県内各地）開催
- ・PR大使スペシャルライブ（10月、デスカマジ）協賛
- ・いい歯のイベント2019（11月、京成ホテルミラマーレ）出展
- ・船橋ダートランニングフェスタ特別企画（11月）協賛
- ・第20回全国穴掘り大会（令和2年2月、成田ゆめ牧場）協賛
- ・ランチフェア（3月、京成ホテルミラマーレ）開催
- ・ハンバーグフェア（3月、コズミックパラソルカフェ・今はな）開催
- ・その他 各銘柄でのチバザビーフPR活動支援  
ホームページの維持・更新  
販促資材（のぼり等）の作成

#### 【チバザビーフ肥育技術向上対策事業】

##### 枝肉品評会の開催

千葉県肉牛生産者の研鑽の機会を創出し、飼養管理技術の向上を図るとともに、食肉流通業者等へ県産牛肉の知名度向上を図るため、集荷量日本一の東京中央卸売市場において枝肉共励会・研究会を開催した。

枝肉共励会 年1回（令和2年2月）

〈出品頭数〉80頭（黒毛和種 44頭、交雑種36頭）

枝肉研究会 年3回（令和元年7月、10月、11月）

〈出品頭数〉 7月：45頭（黒毛和種 20頭、交雑種 25頭）

10月：42頭（黒毛和種 21頭、交雑種 21頭）

11月：44頭（黒毛和種 16頭、交雑種 28頭）

## 10 チバザポーク販売推進協議会関連事業

千葉県の銘柄豚肉出荷団体が連携しチバザポークの知名度向上と販売促進に努めた。

### ①連絡会議の開催

県産豚肉の知名度向上のための連絡会議を年1回開催した。

②主なPR活動

- ・幕張D1（どんぶり）選手権（幕張メッセ）
- ・ちばの大地と海の恵み商談会へ参加（オークラ千葉ホテル）
- ・ジャスト・ミート！8029でのPR（幕張イオン）
- ・チバ肉フェス in フナバシでの販売・PR（船橋競馬場）
- ・肉の宝庫！ちばのビーフ&ポークまつり
- ・チバザポークフェスタ2019（県内8社のホテル）
- ・酪農のさと秋の観光まつりにて試食
- ・食のちばの逸品を発掘2020への応募